

報 告 事 項 2

平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜について

平成24年2月22日

入学者選抜制度の改善に関する検討会議（検討状況）

■基本的な考え方

- 制度の改善を図る一方で、個別の高校のさらなる質の向上が求められるほか、高校と中学校、中学校と保護者の連携強化が必要。
- 公立高校の果たすべき役割を鑑み、教育的視点から制度のあり方を示すことが必要。（就学機会の保障、各高校の役割の違い、多様な学校の選択肢の提供）
- 選抜環境ははまだ安定期を迎えていないと考えられる。中長期的な制度の継続性を念頭に置きつつ、平成25年度選抜からの制度改善を検討。

■前期・後期選抜の再編

【区分】

- 前期は多様な能力を評価する特色入試、後期は学力検査を中心に評価する一般入試という区分に整理し、わかりやすく再編。

【再編の手法】

- ①ひとつの学校の募集人員を前期・後期で分割する手法について
 - ・学校選択の機会を公平に提供できる点は評価できる
 - ・前後期に分かれた入学による学力差や生徒のモチベーションを懸念
- ②その他
 - ・学校間の公平性を担保する方法として、年度によって前期・後期実施校を入れ変えてはどうか
 - ・各高校が自校の果たすべき役割を鑑みた結果、後期選抜だけ実施してもいいのではないか
 - ・学校によって実施方法が異なるとわかりにくい

【前期選抜の比率】

- 中学校における生徒指導上の課題の多寡によっては、早い時期に進路先が決まる生徒が多いと学習環境への影響が大きいため、前期選抜の比率や日程を検討する際には配慮が必要。
- そのうえで、前期比率については「現行程度」「多くても4割まで」「5割までなら許容できる」と意見が分かれた。

■選抜日程の繰り上げ

- 公私同一日程という意見もあったが、大半は繰り上げ競争に陥る恐れがあり、現実的ではないという意見。
- そのうえで、改定イメージについては「繰り上げ効果は期待できない」「中学校の卒業式よりも早く学力検査があれば繰り上げ効果はある」「府立高校の校長の中にはわずかでも繰り上げを望む声があり、それをくみ取って繰り上げるという考え方もある」と意見が分かれた。

■多様な選抜方法の検討

- 推薦入試は客観性・公平性のある推薦基準や判定基準の設定が困難。
- 仮に推薦入試を導入する場合、「専門学科に限定すべき」「地元地域と連携している高校を対象とした一般推薦を検討しては」という意見があった。

入学者選抜制度の改善方策について(論点)

前回議論された主な論点整理

- 中長期的な制度の継続性を念頭に、平成25年度選抜からの制度改善を検討。
- 制度改善を検討する前提として、公立高校の果たすべき役割や教育的な視点からの制度のあり方を示すことが必要。
 - 就学機会の保障
 - … すべての進学希望者が自分の興味・関心に合わせて進路を決められるよう、受入れ可能な学校(募集人員)を用意すべき。
 - 適切な学校選択の機会を提供
 - … 多様な学校の選択肢を提供するとともに、どの高校を選択しても満足できるように個別の高校の質の向上に努める必要がある。
 - 教育的観点による選抜の実施
 - … 受検機会を増やせば不合格となる生徒も増大する可能性があることから、その教育的意義については両論あり。
- 早期に進路先が決定する生徒が増加することによる中学校の学習環境への影響については、出席者の間で意見が分かれた。

(1) 前期・後期選抜の再編

【前回の主な意見】

現行制度上の課題

- ・「早く進路先を決めたい」という受検者ニーズの受け皿である前期選抜の実施校が限られている。

再編を検討する際の留意点

- ・ 前期選抜や私立専願で早期に進路先が決定する子どもが増えると、学習意欲の維持が困難となり、中学校教育が影響を受ける恐れがある。
- ・ 前期選抜の比重が高まるとセーフティネットが機能しなくなるということは一概に言えない。
- ・ 希望校と滑り止めの学校ができるような前期・後期の枠組みではなく、一つの学校で定員を前期と後期で二分するような形での再編が望ましい。

【論点】

- ① 公立のセーフティネットの機能及び中学校の学習環境への配慮という観点を踏まえた前期・後期選抜の募集人員の比重について。
- ② 受検者にとって学校選択の機会を公平に提供する前期・後期選抜のあり方について。

【具体的な改善方策について】

検討の方向性

- 「早く進路先を決めたい」という受検者ニーズに対応するため、中学校の学習環境に配慮しつつ前期選抜の比重を高める。
- これまで後期選抜だけで実施していた全日制普通科及びクリエイティブスクールにおいて、募集人員の一部を前期で募集。
- 前期・後期選抜の選抜資料を簡素化。

具体的な方策

- 前期・後期選抜の区分については、選抜で実施する学科の特徴による区分から、受検者を評価する観点の違いによる区分へと変更し、前期・後期選抜を再編。
 - ⇒ 前期選抜: 受検者の多様な能力を評価する「特色入試」
 - 後期選抜: 受検者の学力を中心に評価する「一般入試」
- 募集人員の一部を前期で募集する際に、小論文・面接などの選抜資料の選択等において校長によるマネジメントを反映。

《実施イメージ例》

◎:必須 ○:学校選択

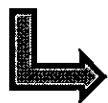
※学力検査欄の数字は実施科目数で、斜体下線付きは改善部分

学校群	平成25年度選抜～							
	前期選抜 (特色入試)					後期選抜 (一般入試)		
	学力検査	調査書	面接	小論文	実技	学力検査	調査書	面接
クリエイティブスクール	<u>◎3</u>	◎	○	○		<u>◎5</u>	◎	×
普通科						◎5	◎	
専門コース設置校 (普通科)			○	○	○	◎5	◎	
普通科 総合選択制			◎			◎5	◎	
普通科単位制	<u>◎3</u>	◎		◎				
専門高校	◎3	◎		農業 工業 国際文化 総合科学	総合造形			
専門学科(前期)・ 普通科(後期)併置校	◎3	◎		文理学 国際教養	体育 音楽 芸文	◎5	◎	
総合学科	<u>◎3</u>	◎	◎	◎				

《公立高校(昼間の学校)における前期比率の比較》

○平成24年度募集の場合

〈前期選抜〉 全日制の課程:14,753人 クリエイティブスクール: —
 〈後期選抜〉 全日制の課程:29,320人 クリエイティブスクール:1,280人



《前期比率》 32.5%

○前期・後期選抜を再編した場合の募集イメージ例

平成24年度募集をもとに、学校全体の募集学級数のうち、下記の学級数を前期選抜で募集した場合

	普通科	専門コース 設置校	普通科 総合選択制	クリエイティブ スクール	前期比率
パターン①	1学級	2学級	3学級	1学級	46.1%
パターン②	1学級	2学級	3学級	2学級	46.6%
パターン③	2学級	2学級	3学級	1学級	49.2%
パターン④	2学級	2学級	3学級	2学級	49.7%
パターン⑤	3学級	3学級	3学級	3学級	55.8%

(2) 選抜日程の繰り上げ

【前回の主な意見】

繰り上げに肯定的な意見

- ・ 中学校の学習環境に配慮しつつも、今春の選抜結果の分析を踏まえて日程を繰り上げるべき。
- ・ 早期に合格者が多く出ても中学校の状況がしんどくなるとは一概に言えない。
- ・ 志願割れした高校の要望にこたえ、日程を繰り上げるべき。

繰り上げに否定的な意見

- ・ 早期に進路先が決定する子どもが増えれば、中学校において学習意欲の維持が困難。
- ・ 公立が選抜日程を早めれば、私立もさらに早める恐れがある。

その他の具体的な提案

- ・ 同一日程で公立と私立の入試を実施してはどうか。
- ・ 卒業式までに学力検査を終わらせてほしい。他県では「学力検査→卒業式→合格発表」という例がある。
- ・ 前期選抜から後期選抜の間に進路面談日程の確保が必要。

【論点】

- ① 中学校の学習環境に配慮しつつ、公私が繰り上げ競争に陥らない程度に選抜日程を早める方法について。

【具体的な改善方策について】

検討の方向性

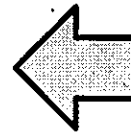
- 「早く進路先を決めたい」という受検者ニーズに対応するため、中学校の学習環境に配慮しつつ、選抜日程全体を繰り上げる。
- ただし、現行の公私合わせた受検機会を維持しつつ、公私が繰り上げ競争に陥って受検者が振り回されないよう、公立の入試日程は私立高校とは別日程とし、私立高校よりも前に繰り上げない。

具体的な方策

- 私立高校の合格発表後に前期選抜の出願期間を設定。
- 進路面談の日程を確保しつつ選抜日程の短縮を図り、中学校卒業式前に後期選抜の学力検査を実施。

《平成25年度選抜の場合》

	前期選抜	後期選抜
出願期間	2/14~15	3/4~3/5
学力検査等	2/21	3/11
合格発表	2/27	3/15



《平成24年度選抜の場合》

前期選抜	後期選抜
2/16~17	3/7~9
2/23	3/16
3/1	3/23

(3) 多様な選抜方法の検討

【前回の主な意見】

- 高校では特色入試を実施してほしいという意見が多い。推薦の中では特別推薦を希望する傾向があるが、一般推薦として地元枠を設けてはどうかという意見もある。
- 専門的な特性が要求される学科に限定して特別推薦の導入を検討すべき。
- 中学校の一部では「一芸入試」的な特別推薦を実施してほしいという要望はあるが、前期選抜の比重が高まると懸念。
- 近畿では一般推薦を縮小する傾向にある。
- 推薦入試は客観性や公平性に課題があるが、導入するのであれば中学校での頑張りを評価する基準が望まれる。

【論点】

- ① 特色入試に加えて推薦入試を実施することについて。
- ② 客観性・公平性を担保し、中学校での頑張りを評価できる推薦基準について。
- ③ 中学校教育に配慮した推薦枠(募集人数)について。

【具体的な改善方策について】

検討の方向性

- 受検者が自身の興味・関心、進路・適性に合った学校を選択できるよう、受検者の多様な能力をより一層評価できる「推薦入試」を導入。
- 中学校の学習環境に配慮するため、前期選抜で推薦入試を実施。

具体的な方策

- 推薦過程に客観性・公平性を欠く恣意的要素が介在する恐れが少ない「一般推薦入試」を当面導入。
- 中学校における学習姿勢等を評価できるように推薦基準を設定。
- 前期選抜の比重の増大に留意しつつ、推薦枠を設定。

【実施イメージ例】

◎:必須 ○:学校選択

※学力検査欄の数字は実施科目数で、斜体下線付きは改善部分

学校群	平成25年度選抜～											
	前期選抜 (一般推薦入試)				前期選抜 (特色入試)					後期選抜 (一般入試)		
	調査書	面接	小論文	実技	学力検査	調査書	面接	小論文	実技	学力検査	調査書	面接
クリエイティブスクール										◎5	◎	X
普通科	◎	○	○	○	◎3	◎	○	○		◎5	◎	
専門コース設置校 (普通科)							○	○	○	◎5	◎	
普通科 総合選択制							◎			◎5	◎	
普通科単位制					◎3	◎		◎				
専門高校					◎3	◎		農業 工業 国際文化 総合科学	総合造形			
専門学科(前期)・ 普通科(後期)併置校					◎3	◎		文理学 国際教養	体育 音楽 芸文	◎5	◎	
総合学科					◎3	◎	◎	◎				

○平成25年度選抜日程（イメージ）

参考資料2

			従前のイメージ		改定イメージ			
月	日	曜	公立日程 (平成24年度選抜同様)	府立高校 行事予定(例)	公立日程改定案 (約4日間の繰上げ)	府立高校 行事予定(例)	私立日程等 (H23実績による)	
1	30日(水)							
	31日(木)				前期選拔出願(音楽科)			
2	1日(金)							
	2日(土)							
	3日(日)							
	4日(月)							
	5日(火)							
	6日(水)			前期選拔出願(音楽科)				
	7日(木)			↓	卒業判定会議		卒業判定会議	
	8日(金)							
	9日(土)							
	10日(日)					実技検査(音楽科)		私立入試
	11日(月)			建国記念の日				私立入試 合格発表
	12日(火)							↑ 1.5次選抜
	13日(水)							
	14日(木)					前期選拔出願		
	15日(金)					↓		
	16日(土)							
17日(日)			実技検査(音楽科)					
18日(月)			前期選拔出願					
19日(火)			↓					
20日(水)								
21日(木)					前期選抜学力検査			
22日(金)				卒業式		卒業式		
23日(土)								
24日(日)								
25日(月)			前期選抜学力検査					
26日(火)								
27日(水)					前期選抜合格者発表			
28日(木)				学年末考査		学年末考査		
3	1日(金)							1.5次選抜
	2日(土)							↑
	3日(日)							
	4日(月)			前期選抜合格者発表		後期選拔出願(全・多・定・通)		
	5日(火)							
	6日(水)							
	7日(木)				在籍生徒 成績処理①			
	8日(金)			後期選拔出願(全・多・定・通)	在籍生徒 成績処理②			
	9日(土)				在籍生徒 成績処理③			
	10日(日)							
	11日(月)					後期選抜学力検査	入試業務①	
	12日(火)				在籍生徒 成績処理④		入試業務②	卒業式
	13日(水)				進級判定会議		入試業務③	
	14日(木)				在籍生徒 成績処理⑤		入試業務④ 成績処理①	
	15日(金)				終業式	後期選抜合格者発表	入試業務⑤ 成績処理②	
	16日(土)							
17日(日)								
18日(月)			後期選抜学力検査	入試業務①		成績処理③		
19日(火)				入試業務②		成績処理④		
20日(水)			春分の日					
21日(木)				入試業務③		進級判定会議		
22日(金)				入試業務④		在籍生徒 成績処理⑤		
23日(土)								
24日(日)								
25日(月)			後期選抜合格者発表	入試業務⑤		終業式		
26日(火)			二次選拔出願		二次選拔出願			
27日(水)								
28日(木)			二次選抜合格者発表		二次選抜合格者発表			
29日(金)								
30日(土)								
31日(日)								